



HPVワクチン薬害訴訟学習会開催@三多摩

第4⑩期⑩の11月22⑩日に先立つ11月13⑩日、立川北口薬局ビルで、HPVワクチン薬害訴訟学習会が開催されました。

学生さんが実習している間に聞いてほしい！学生さんと一緒に、職員さんにも聞いてほしい！という意向があったので開催だとのことでした。

学習会でお話をしてくださった被害者は薬学を志している方です。薬学生、薬局職員、職員家族、OB、医師、看護師が参加し、被害者の方と弁護士さんの話を聞き、とてもいい機会となった、いい学習会だったそうです。

感想を、原文ままとは思いましたが、一部略で掲載させていただきます。

- 原告の方と喘息、吹奏楽部、薬剤師を目指している点で境遇が似ていました。この世代は、子宮頸がんを予防できると言われ、インフルエンザワクチンと同じ感覚で打っていました。けれども予想もしていなかった副反応で人生が大きく変わってしまい、その時は本当に苦しみ・不安・絶望があり、想像できないほど大変だったのだらうと感じました。未来に向かって進んでいく原告の方を見て私も勇気をもらえました。(学)
- 副反応の機序がわからず、治療法も確立していない中で、様々な症状と闘いながら、とても前向きに治療や勉強に取り組んでいて、努力されていると感じました。私は子宮頸がんワクチンの投与を終えた直後に、テレビのニュースで副反応のことを知りました。実際にお話をお聞きし、こんなに長期間症状に苦しめられているということを知りました。もし、自分に副反応が起きていたらと考えると、原告の方のようには努力できなかったと思います。(学)



- 薬剤師を目指している学生がワクチンを接種した後、様々な症状により退学を迫られてしまったこと、とても心が痛くなりました。それでも夢をあきらめず、通信で学習続けていて素晴らしいと思いました。元の体調に戻り勉強して薬剤師になってほしいと思います。(薬)
- 他の原告の方の話は聞いたことがありましたが、初めての話でした。一人一人がそれぞれに人生をくるわされて、大変ななかで頑張っている姿に心を打たれました。(OB)
- ちょうど同じ頃に娘もワクチン接種しました。前向きにとりくんでいることを聞き、感動しました。(家)
- 健康であり続けるためのワクチンで大きな被害が出たこと。被害者の方は被害とこの先も闘っていくこと。今回の話が聴けたことは人生の大きな分岐点となりました。これから多くの人に伝わるように運動があり、手助けが少しでもできるようにと思いました。楽しさと幸せを忘れないように、勇気をもらえた気がします。(学)
- HPV ワクチンの副作用と判明するまで、たくさんの病院をまわり、いろいろな疾患名をつけられたり、高卒認定試験では一科目受けごとに休まなければならなかったり、実際に被害にあわれた方からお話を聞くことができよかったです。前向きに毎日を過ごしている様子を、私も頑張らなければと感じました。(新薬)
- 症状やそれによってどんなに生活が変わってしまったか、詳しく知ることができました。これほどまでに生活が変わっているのに医療費助成しかないのは、患者の状況を理解していないと感じました。接種前の生活に戻れる日を願っています。(新薬)
- 勇気を出して話をして頂き感謝です。夢をあきらめない姿に心をうたれました。(薬)
- 今までの経過を年次順にまとめて話していただき大変参考になりました。これまでにするには、大変な苦痛があり、精神的にそれに対処することが大変だったとお察しします。いろいろな症状が次から次に出てきたときの、自分の体、健康に対する不安感、重圧感は察するに余りあります。でも支援者が少しずつ増えていると思われまし、今日のような学習会の場に出てきていただいた勇気は、必ず伝わると思います。(薬)



(学習会感想の続き…)

- 謝罪や賠償金よりも「たくさんの人に知ってもらいたい」、「信用してほしい」という言葉に、周りの人の支えがどれだけ大切か伝わってきました。裁判で闘う決断は、想像以上に勇気が必要だったと感じます。毎日自身の症状と向き合いながら、夢をあきらめず勉学に励む大変さを知り、努力を少しでも支えたいと思いました。(学)
- 原告の方の話があったからこそ、水口先生(弁護士)の話が説得力をもちました。少しでも症状が楽になるように、心の平穏がおとずれるように祈っています。応援しています。自分も患者さんや周りの家族、友人に広めていきます。(医)
- 薬害について、大学の講義や実習先での薬剤師の話等で学んでいた。しかし、被害者の気持ちや訴訟の詳しい流れ等の話はなく、ただ憶えておくべき事件だった。今回、実際に被害を受けた方から、被害後の生活の変化、気持ちの変化、具体的な症状について直接話を聞くことができ、私の中で薬害は知識として憶えるものから、調べ考えるものになった。薬剤師になるための試験には必要ないことかもしれないが、薬剤師になった後、本当の医療人として活動していくために必要な話であると感じた。今日は本当にありがとうございました。(学)
- 被害者の方々は苦しんでいるにも関わらず嘘をついていると言われたことを知り、とても衝撃でした。医療関係者として、私は疑ってかかるのではなく、よりそえる側でありたいと思いました。お金や寄付、利益相反の話など、人の命にかかわる問題にあるにも関わらず、このようなことが起きていることが許せない気持ちになり、腹立たしいと思いました。(新薬)
- 当事者だけでなく、家族の立場、状況を知ることができました。貴重な時間を共有できたことを感謝しております。(薬)

薬いろいろ①

* 審査報告書読んでみました アメナリーフ (アメナビル・抗ウイルス薬)

- 殆んど糞中排泄なので腎機能に基づく用量調整は不要!とのことですが、バラシクロビルに比べてNAG、 α MGの異常増加が一過性ですが認められており、審査の概要でも「腎機能が不明な場合は腎機能検査をする必要があると考えられる」と記載されています。しかし、IFでも、添付文書でもその注意は記載されていません。尿中未変化体排泄率で日本人と外国人で5倍差があるのも気になります。
- 本薬は米国のフェーズ1で因果関係が否定できない重篤な血小板減少症が発現し、開発が中断されています。その後、製薬メーカーが変わり、開発が再開されましたが、安全性において重要な情報ですね。



薬いろいろ②

* タミフル使用患者家族への注意事項；2日間は一人にしない・必要なら施錠・

- インフルエンザシーズン突入の11月末、厚労省は、インフルエンザに罹ったら、薬の服用や種類に関わらず、2日間は異常行動に注意し、患児を一人にしない、ドアや窓は施錠するなど、具体的な対策を促す通知をしました。薬と異常行動との因果関係は明らかでないので、インフルエンザに罹ったら…の注意喚起としていますが、昨シーズンの調べでは、飛び降りや転落につながる異常行動は、タミフル38件、リレンザ11件、イナビル5件が報告されています。表向きは、薬をのんでいなくても、インフルエンザに罹ったら注意ですよ!という意味ですよ…と見せて、異常行動が抗インフルエンザ薬ばかりが原因ではないから、薬はのんでね…と、抗インフルエンザ薬の自動処方状態は許容されている感じです。

* 2017年6月、WHOはタミフルを必須薬コアリストから降格させると発表しました。今後、新たな有効性を示す資料がなければ、WHO必須薬から削除することになるだろうと、BMJ誌は伝えています。

これまでの客観的な有効性と安全性を踏まえ、タミフルに限らず、抗インフルエンザ薬の有効性について、あらためて議論してもいいのではないのでしょうか。



★HPV ワクキ > 薬害学習会のご案内★

薬害問題に長年取り組まれている新薬学研究者技術者集団(シグマ)と新医協の合同開催です。仮の日程ですがご案内します。

2月16日(金) 14:00~16:30 IKE・Biz (旧勤労者福祉会館)にて

職員さん、薬学生さん、是非この機会に、被害者の方の声を聞きに来て下さい。

